

わが国工作機械産業の需給実績と見通し

[2024年1月11日発表・暦年ベース]

ニュースダイジェスト社「月刊生産財マーケティング」編集部

1. 受注

●昨2023年の受注額は前年比15.9%減の1兆4800億円となったもよう。新型コロナウイルス禍からV字回復した22年3月の月次受注額1663億円をピークに、2年弱にわたって軟調が続いている。しかし、月々の受注額が急落することはなく、直近で最も低かった23年10月でも好不況の目安とされるいわゆる1000億円ラインを100億円ほど上回っている。主要顧客である自動車業界では「EVシフト」の流れを受けて、エンジン車向けの生産設備投資は動きが鈍い。その他、電気精密、一般機械産業などでも軟調は続いており、受注環境としては厳しい一年であった。

●24年の受注額は1兆3000億円と予想する。主要市場である中国では、全体経済の回復には構造的な改革が必須であり、しばらくは底練りの状態が続くとみられる。欧米市場は大きく崩れることなく引き続き堅調に推移するものとみられる。

●自動車業界では、EV関連投資は引き続きある程度のボリュームが見込まれ、またその他の生産設備についても更新需要が出始めると期待される。半導体関連産業は、ロジック系は前半に、メモリ系は後半には動くとの観測もあるが、需要変動が激しい業界であるためタイミングは読みにくい。

2. 生産

●昨2023年の生産額は前年比1.7%減の1兆600億円となったもよう。受注環境が軟調になるにつれ、数年来続いていた部品不足はほぼ解消された。22年に受注残が大きく積みあがった効果で、工作機械メーカーの多くが売り上げを伸ばした。

●24年の生産額は同5.7%減の1兆円と予想する。受注環境は弱含みでのスタートとなるが、半年分ほどの受注残は確保済みであり、また年後半にかけてはマクロな経済環境が改善に向かうとみられるため、工作機械生産は現在同様に月産900億円前後で推移すると考えられる。

●近年、工作機械に搬送装置、検査機器、ソフトウェアなどを組み合わせた自動化システムの需要が高まり、平均単価を押し上げている。一方、物価高の影響で部品やユニットなどの購入費が上がり、工作機械の原価率も上昇傾向にある。海外展開を得意とするメーカーは円安の追い風もあって順調に売り上げを伸ばしているが、国内市場を中心とするメーカーの負担は大きい。

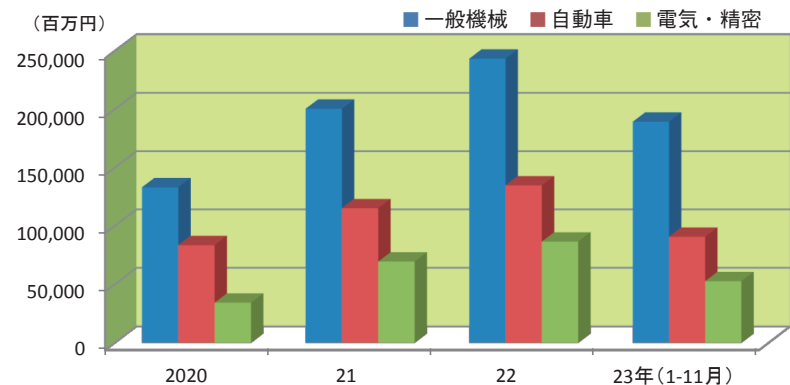
[日本工作機械工業会統計]

(単位:百万円、カッコ内は前年比増減率%)

◆歴年	2020年	2021年	2022年
受注総額	901,835 (-26.7)	1,541,419 (+70.9)	1,759,601 (+14.2)
内 需	324,455 (-34.2)	510,324 (+57.3)	603,231 (+18.2)
外 需	577,380 (-21.6)	1,031,095 (+78.6)	1,156,370 (+12.1)

◆暦年	2023年	2024年予想
受注総額	1,480,000 (-15.9)	1,300,000 (-12.2)
内 需	480,000 (-20.4)	450,000 (-6.3)
外 需	1,000,000 (-13.5)	850,000 (-15.0)

■内需の需要産業別受注額推移



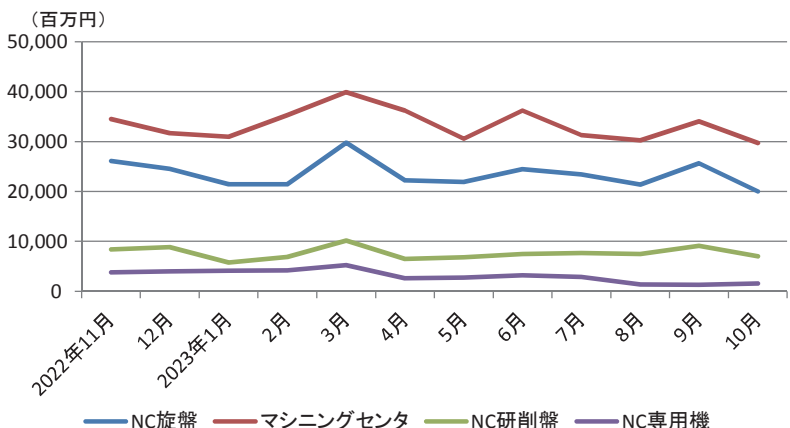
[経済産業省機械統計]

(単位:百万円・台、カッコ内は前年比増減率%)

◆暦年	2020年	2021年	2022年
金 額	723,994 (-32.5)	895,409 (+23.7)	1,078,833 (+20.5)
台 数	45,569 (-26.8)	67,601 (+48.3)	70,004 (+3.6)
・単価	15.9 (-7.6)	13.2 (-17.0)	15.4 (+16.7)

◆暦年	2023年	2024年予想
金 額	1,060,000 (-1.7)	1,000,000 (-5.7)
台 数	60,500 (-13.6)	62,000 (+2.5)
・単価	17.5 (+13.6)	16.1 (-8.0)

■機種別生産額推移



3. 輸出

●昨2023年の輸出額は前年比3.2%減の8300億円となったもよう。円安の追い風があり22年の高水準を維持した。欧州の競合メーカーに対しても、台湾など新興国のメーカーに対しても優位性を発揮できている。ただし、ドルベースで見た場合、受注総額は非常に低いレンジに入っているので注意が必要である。

●24年の輸出額は7500億円を見込む。為替が円高に振れば前年比減少となる可能性が高い。中国はマクロ経済の減速が影響して立ち上がりは遅れそうだが、欧米市場の工作機械需要は引き続き堅調に推移するとみられる。米国はインフレの鎮静化に伴い、利下げ方向への金融政策の転換が見込まれるなど、ソフトランディングの可能性が高まっている。欧州ではEVシフトなど各種環境対応への要求がこの数年過熱していたが、若干の落ちつきを見せはじめた。

●世界的には、地政学的リスクや気象の激甚化に伴うリスクなどが貿易に大きな影響を与える状況が続いている。スエズ運河や紅海では商船が武装組織に襲われる事件が頻発し、パナマ運河は干ばつの影響で通航制限が設けられるなど、海上交通費のインフレや物流のひっ迫が再燃する可能性が高まっている。

4. 輸入

●昨2023年の輸入額は前年比3.1%増の900億円となったもよう。国内市場は低調に推移しているが、マシニングセンタ(MC)や研削盤がけん引し、輸入機市場は3年連続で前年を上回った。

●輸入機市場の主力機種は旋盤やレーザ加工機、研削盤、MCなど。全体に占めるウエートが大きい旋盤は22年に過去最高額を記録したが、昨年は中国からの安価なNC旋盤の輸入が減少し、同31.0%減の220億円と大幅に低下したもよう。

●24年の輸入額は同16.7%減の750億円となりそう。主力機種は軒並み前年を下回り、4年ぶりにマイナスに転じる見込み。国内市場は低迷が続くとみられる。為替レートは円高側に若干は戻ると予想されるが、円安の状況を脱するには至らず、輸入機にとっては引き続き厳しい環境となる。

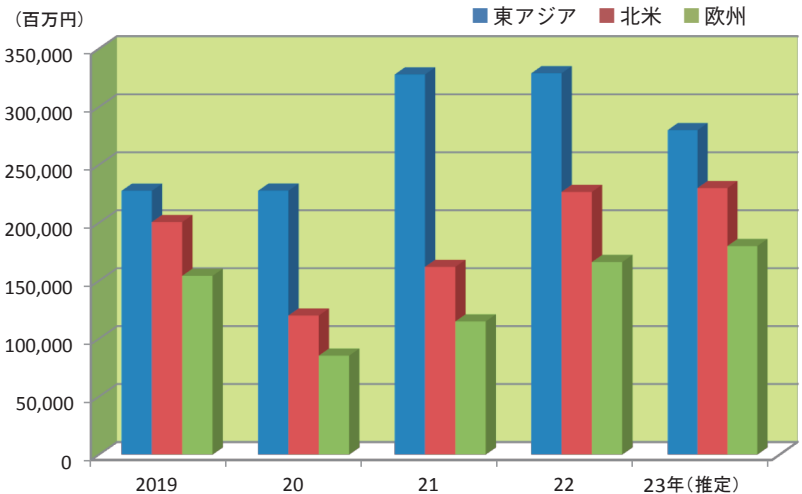
〔財務省貿易統計〕

(単位:百万円、カッコ内は前年比増減率%)

	2020年	2021年	2022年
総金額	529,567 (-28.0)	712,613 (+34.6)	857,072 (+20.3)
・対東アジア	227,799 (+0.0)	328,040 (+44.0)	329,068 (+0.3)
・対北米	120,048 (-40.2)	162,030 (+35.0)	226,672 (+39.9)
・対欧州	85,423 (-44.6)	114,984 (+34.6)	166,226 (+44.6)

	2023年	2024年予想
総金額	830,000 (-3.2)	750,000 (-9.6)
・対東アジア	280,000 (-14.9)	250,000 (-10.7)
・対北米	230,000 (+1.5)	220,000 (-4.3)
・対欧州	180,000 (+8.3)	190,000 (+5.6)

■主な市場別輸出額の推移



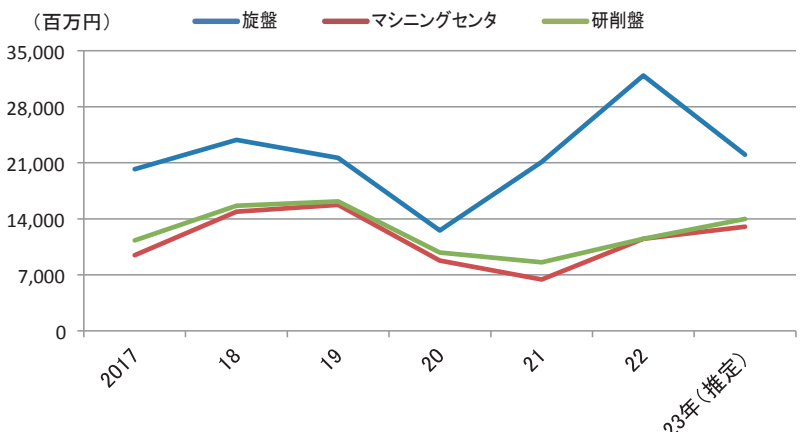
〔日本工作機械輸入協会〕

(単位:百万円、カッコ内は前年比増減率%)

	2020年	2021年	2022年
総金額	68,593 (-36.2)	72,704 (+6.0)	87,282 (+20.1)
・旋盤	12,540 (-42.0)	21,119 (+68.4)	31,900 (+51.0)
・MC	8,775 (-44.3)	6,415 (-26.9)	11,508 (+79.4)
・研削盤	9,790 (-39.5)	8,565 (-12.5)	11,510 (+34.4)

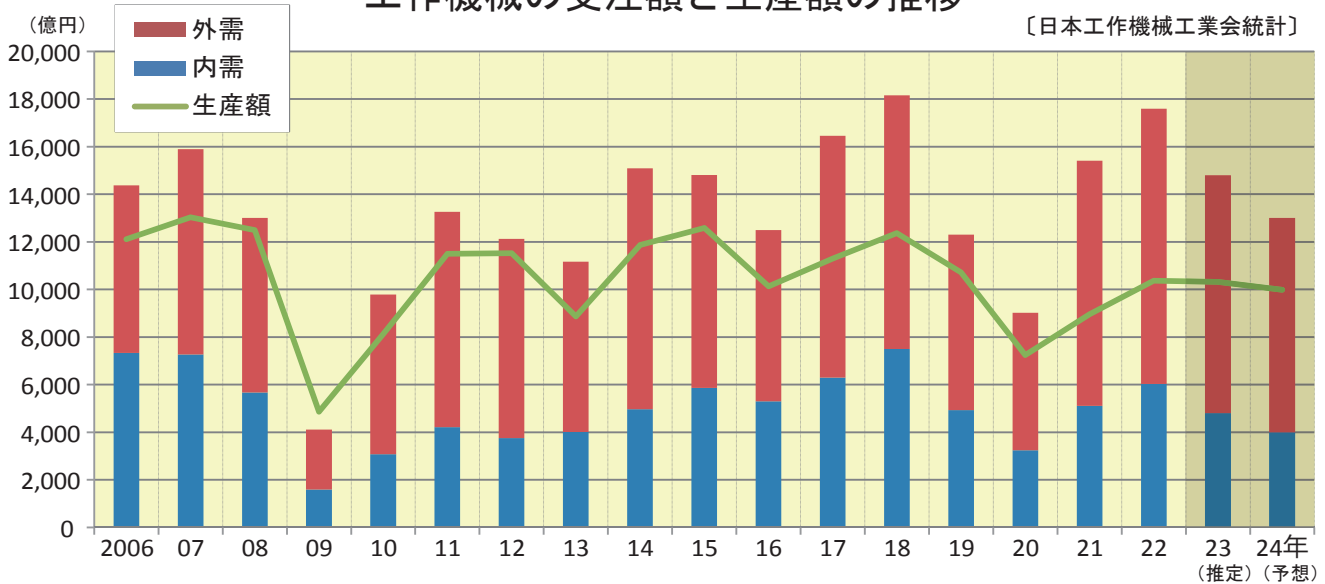
	2023年	2024年予想
総金額	90,000 (+3.1)	75,000 (-16.7)
・旋盤	22,000 (-31.0)	20,000 (-9.1)
・MC	13,000 (+13.0)	10,000 (-23.1)
・研削盤	14,000 (+21.6)	11,000 (-21.4)

■機種別輸入額推移



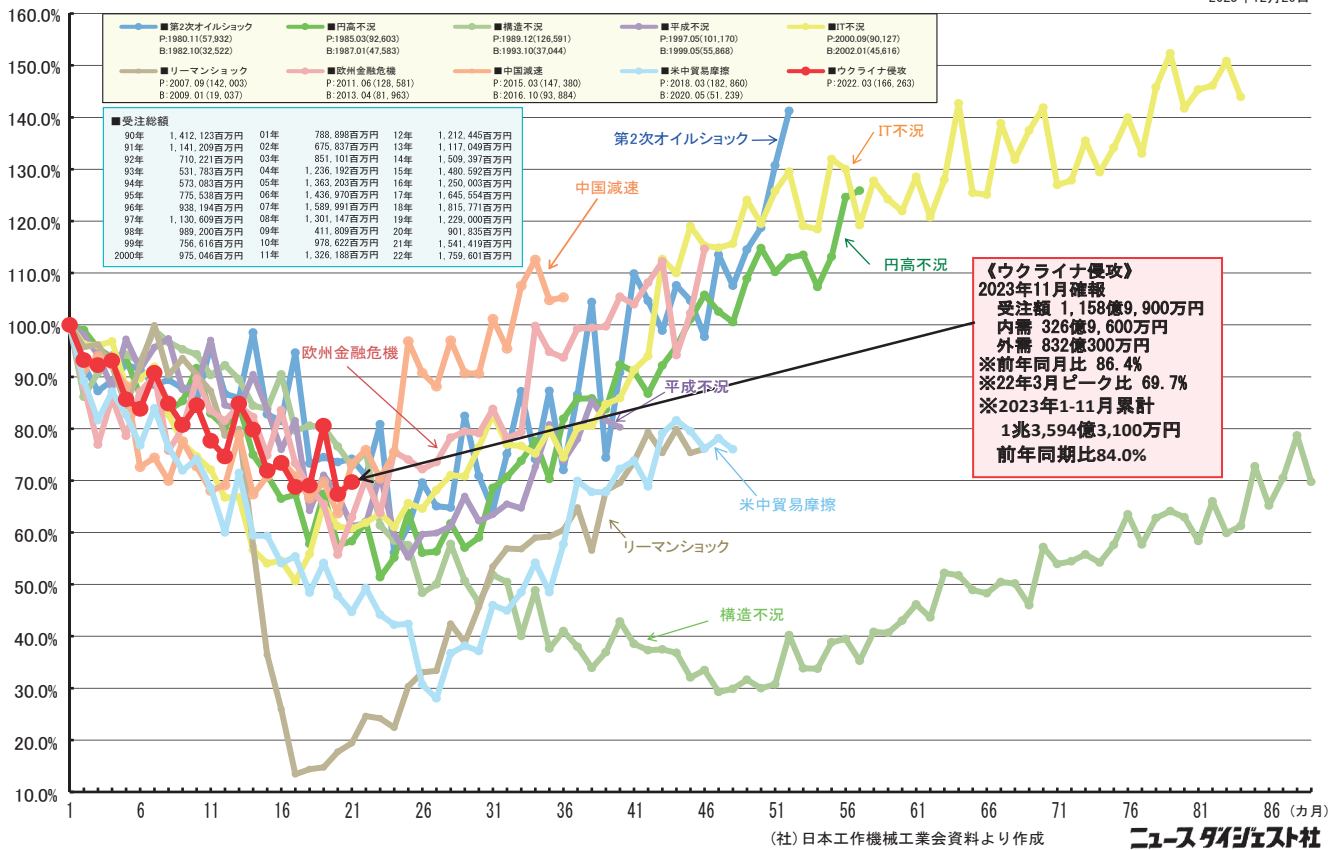
工作機械の受注額と生産額の推移

〔日本工作機械工業会統計〕



工作機械「内外需」受注グラフ 2023年11月（確報）

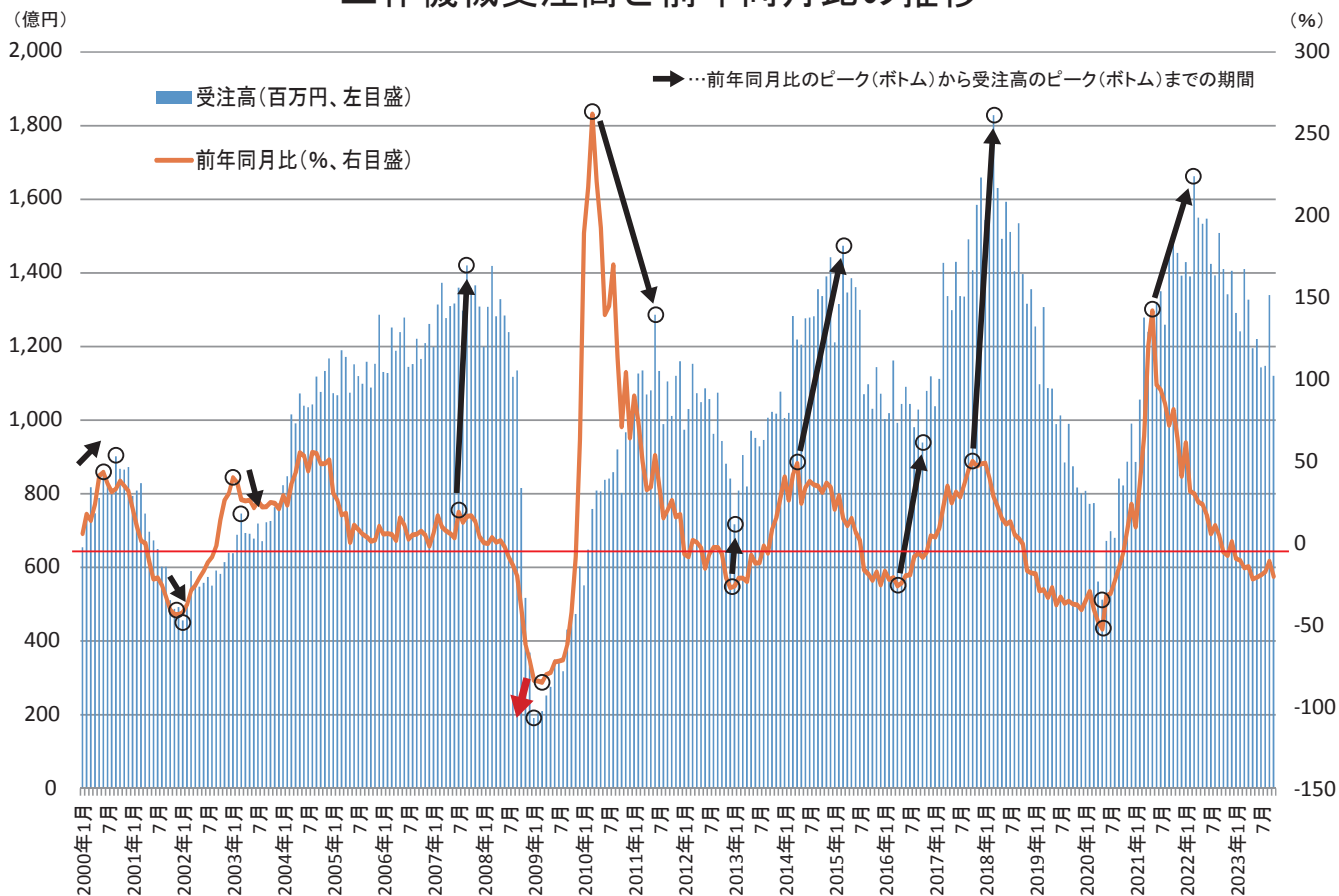
2023年12月26日



●グラフ(下)の見方：景気の頂点にあたる四半期の受注額を100の指数で表し、その後の景気後退と回復(谷と山)の期間と高低を示した

【グラフ説明】	頂点P	底点B	底点/頂点	P⇒B期間	B⇒次P期間
①第2次オイルショック不況	80年11月 (57,932)	82年10月 (32,522)	56.1%	24ヵ月間	18ヵ月間
②円高不況	85年03月 (92,603)	87年01月 (47,583)	51.4%	21ヵ月間	22ヵ月間
③構造不況	89年12月 (126,591)	93年10月 (37,044)	29.3%	42ヵ月間	43ヵ月間
④平成不況	97年05月 (101,170)	99年05月 (55,868)	52.2%	23ヵ月間	16ヵ月間
⑤IT不況	00年09月 (90,127)	02年01月 (45,616)	50.6%	14ヵ月間	55ヵ月間
⑥リーマンショック	07年09月 (142,003)	09年01月 (19,037)	13.4%	16ヵ月間	29ヵ月間
⑦欧州金融危機	11年06月 (128,581)	13年04月 (81,963)	63.7%	22ヵ月間	23ヵ月間
⑧中国減速	15年03月 (147,380)	16年10月 (93,884)	63.7%	20ヵ月間	17ヵ月間
⑨米中貿易摩擦	18年03月 (182,860)	20年05月 (51,239)	28.0%	26ヵ月間	22ヵ月間
⑩ウクライナ侵攻	22年03月 (166,263)				

工作機械受注高と前年同月比の推移



工作機械、工作機器、機械工具、産業用ロボットの生産額の推移

